平成29年9月30日＠関西大学梅田キャンパス

アクティブラーニング型授業
高校と大学による事例報告会

～高校からの実践報告

平成29年9月30日（土）

桐蔭学園　　佐藤　　透
satohru@toin.ac.jp

今日お話させて頂くこと

1. AL型授業のポイントは？
2. 私の授業実践から
3. 課題と今後の展開

今日お話させて頂くこと

1. AL型授業のポイントは？

2. 私の授業実践から

3. 課題と今後の展開

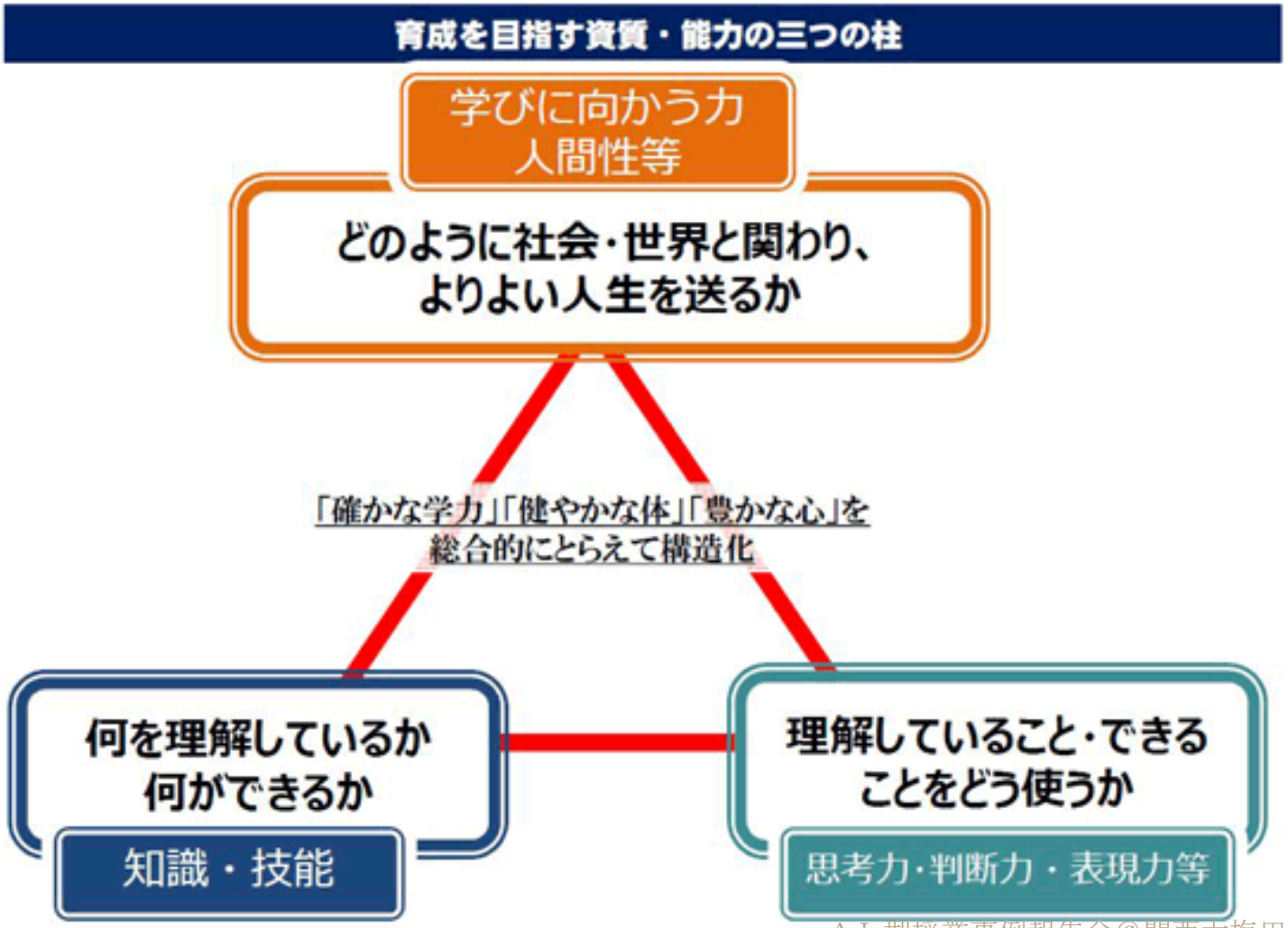
教育⇒未来を生きる生徒のため

現場の教育実践・授業実践を
将来の社会と重ねて考える

生徒が身につけるべき学力を
将来の社会・仕事に繋げて考える

今までの授業などでこれからの社会
で求められている力を育めるの？？

新学習指導要領～３つの柱



アクティブラーニングを通した高大連携

高校＝教育・研究

アクティブラーニング
トランジションリレー

大学＝研究・教育

社会＝生活

学びと成長を見据えた
高大接続・高大連携

なぜAL型授業なのか

そもそも桐蔭学園がAL型授業の導入を核にした教育改革・授業改革に乗り出した理由は・・・

⇒**学校から社会へのトランジション課題の解決のため**

【背景―社会の変化】

そのための**新しい「学び」**が中高段階でも求められている→**AL型授業へ**

桐蔭学園教育改革の展開

①プレ授業改革　2014年4月～
学園創立50周年
※2014年10月のこと

②AL型授業導入　2015年4月～
第Ⅰ期：中1・中等1＆高1・中等4
溝上慎一先生が教育顧問に

③AL型授業導入　2016年4月～
第Ⅱ期：中2・中等2＆高2・中等5
★ＡＬ入試導入

桐蔭学園教育改革の展開

④AL型授業導入　2017年4月～
第Ⅲ期：中3・中等3＆高3・中等6
※教育企画室・経営企画室始動

⑤高校（高入生）完全共学化（予定）
2018年4月～

⑥中等教育学校完全共学化　（予定）
2019年4月～

ここまでの実践から見えてきた AL型授業のポイント

ＡＬ（アクティブラーニング）とは

一方的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。

（京都大学　溝上慎一教授）

ここまでの実践から見えてきた AL型授業のポイント

教室をコントロールする力

ペアワーク・グループワークの原則

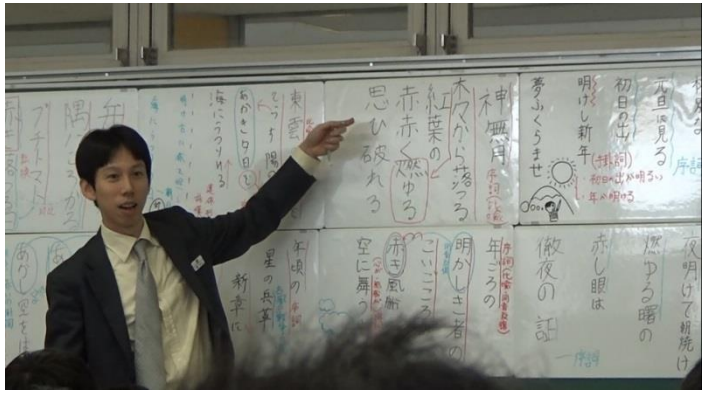
目標：
「社会につなげる深い学びのために、
互いの考えを伝え合おう」

深く学び合うために
1　相手の方を向いて話そう
2　相手の話を誠実な態度で受けとめよう

ルール
関係ない話はしない

安心安全な学びの空間
相互の信頼関係

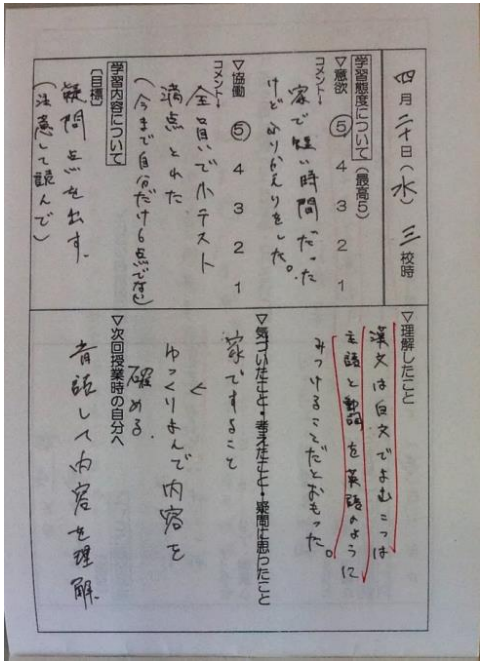
ここまでの実践から見えてきた AL型授業のポイント



講義―知識・指示

個⇒協働⇒個

前に出てきて発表



ふり返り

AL型授業のポイント
授業デザイン･学習デザインという発想

目の前の生徒の10年後、20年後･･･イメージ

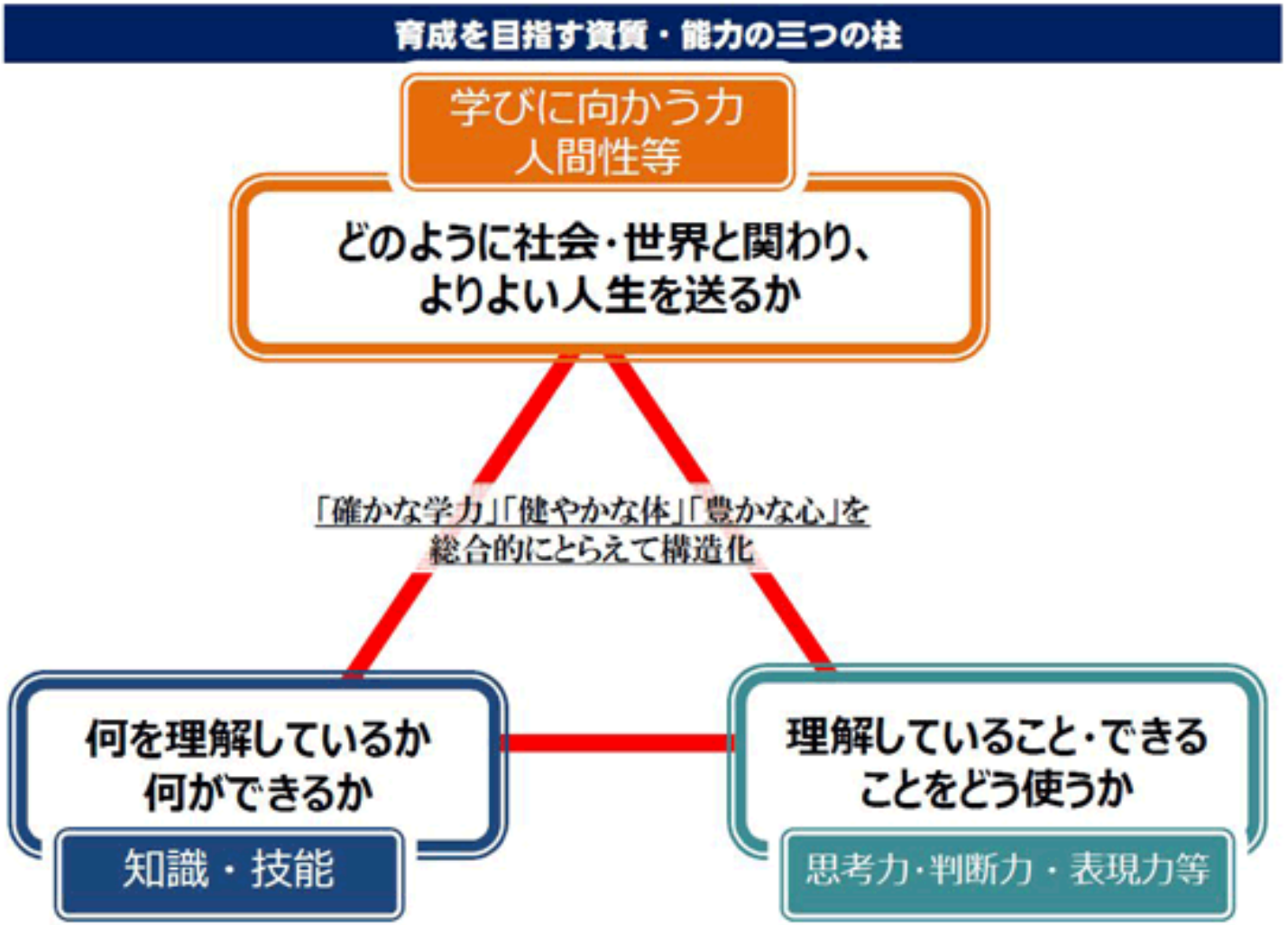
★どんな力を身に付けて巣立っていってほしいか
その力をいつどこでだれがどのように･･･

目標･･･　？　･･･生徒の分析

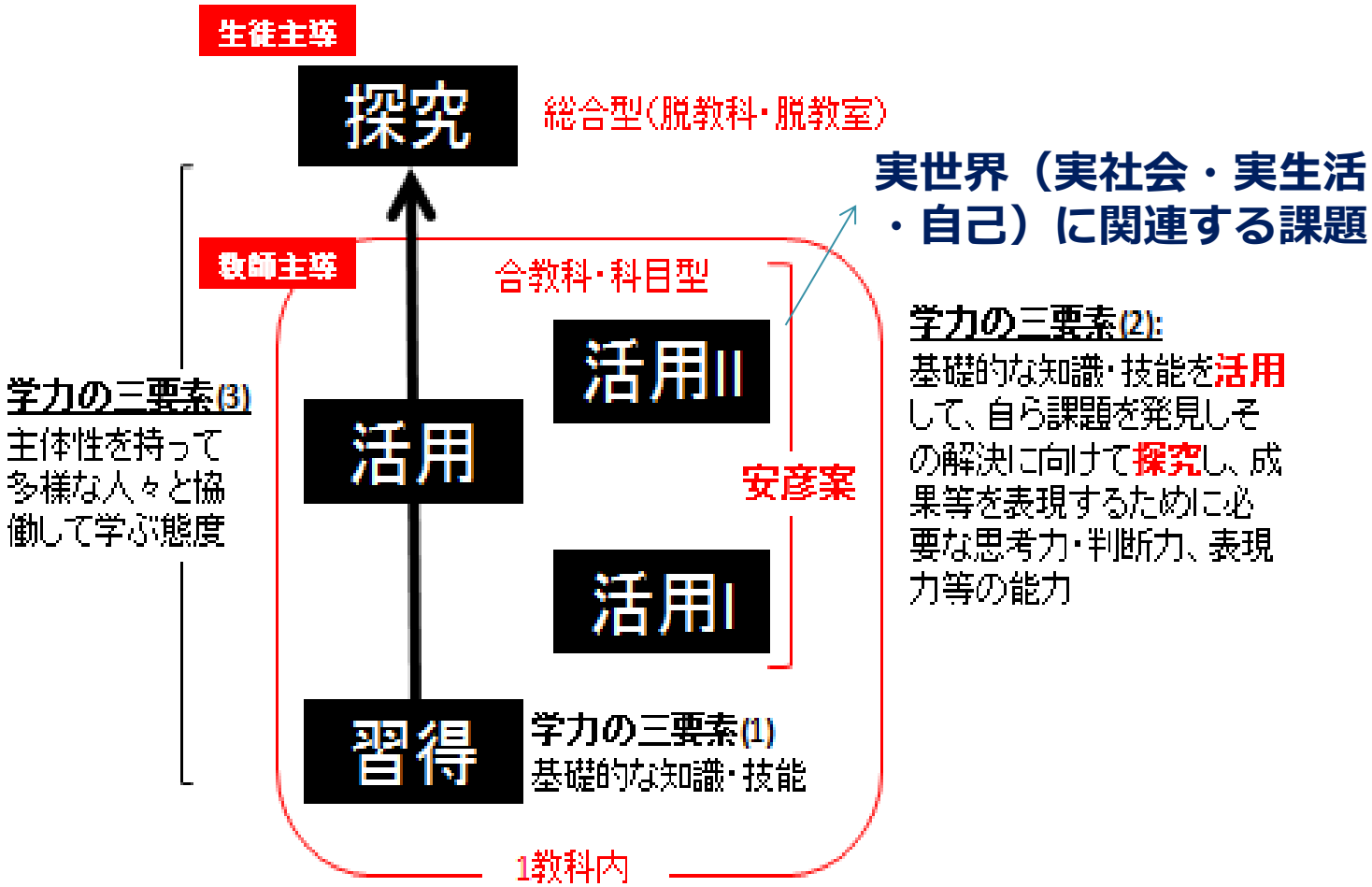
⇒これまでの授業＆指導の見直し
これまでの授業の経験＆知識･技術を土台に

「授業のどこを生徒に任せようか･･･？」

新学習指導要領～3つの柱



ここまでの実践から見えてきた
AL型授業のポイント－習得から活用Ⅱ問題へ



AL型授業のポイントー1コマの基本構成

講義X⇒内化（個a） ⇒外化（協働）⇒ 講義Y ⇒ 内化（個A）

目標提示 個人での思考 AL（発問） 個人で整理

「わかったつもり」 個で整理⇒発表 「わかった！」

リフレクション

いかにして個人の学びに落とし込むか

★外化⇒どこでどのALをのせるか・・・

目的に合わせて様々なアウトプットの活動を

組み合わせて授業をデザイン

ペアワークか、グループワークか、発表か等

不断の授業改善へ

学習成果（リフレクションシート・テスト・レポート、パフォーマンス課題・・・）の検証

もし十分な成果が認められなかったら

⇒AL型授業のプロセスに何か問題はなかったか？

★例えば・・・

〇課題に取り組む前の生徒の学習状況は？

〇与えた課題の質や難易度は適切だったか？

〇人任せの活動になっていなかったか？

〇生徒が既有の知識や資料などを精一杯駆使していたか？

⇒問題点がわかる⇒改善へ

今日お話させて頂くこと

1. AL型授業のポイントは？

2. 私の授業実践から

3. 課題と今後の展開

昨年度の振り返りを生かしスタート
2017年度高校3年生対象「古文」

日長きころなれば、追風さへ添ひて、まだ申の刻ばかりに、かの浦に着きたまひぬ。

（『源氏物語』「須磨」）

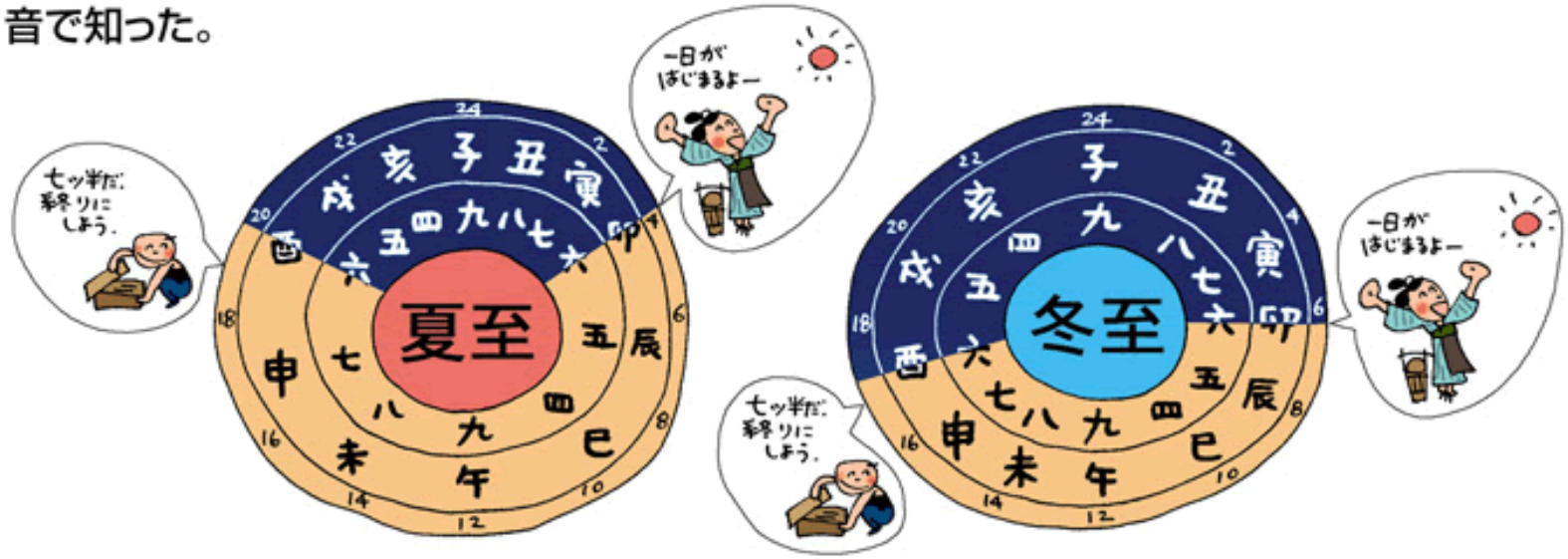
将来社会に出てからのどんな「力」に繋がるかな？

生徒が古文を学ぶ意味を自らで見出してほしいなあ。

ここで必要な知識やスキルって何だろう？

古典の時間―不定時法

常に日の出のおよそ30分前を明け六つ、日没のおよそ30分後を暮れ六つとしたこの不定時法では、一刻の長さが、昼と夜で、また季節によっても違ってくる。しかし、江戸の人々の生活にはそれで何の不便もなかった。人々はこうした時刻を、各地に設けられた時の鐘の音で知った。



私の授業～高3＆中等6　国特①古文

①習得型中心のAL　4月～5月

生徒は事前に決められた古文単語＆古典文法をインプット
⇒個

授業開始と同時に定着状況の確認　⇒ペア

小テストで定着＆活用Ｉの確認　⇒個

小テストの答え合わせ　⇒ペア

全体へのフィードバック　⇒講義

文法の小テスト　⇒個

小テストの答え合わせ　⇒ペア

全体へのフィードバック　⇒講義

★ここまでで平均20～25分／50分

このあと『源氏物語』で「読む」プロセスを体験

生徒のリフレクションから現在進行形2017．4

- 知識がすべてではなく、それを基準に文脈に合う意味を自分で考える
- 程度を表す単語の扱いにくさが分かった。でも、逆に攻略できたら読みが深まる。慣れていきます。
- 一文だけでも疑問が自分の中で浮かび上がってきて面白かったです。
- ムダだと思ってもアイデアを出し続けるのは大切ですね！

前期中間考査結果

全体平均点　62.3点

【平均点の推移ー定点観測】

56.7点（2016）←51.5点（2015）←

45.3点（2014）←41.5点（2013）

大問1	77.2%	（75.5%）
大問2	52.1%	（57.5%）
大問3	66.1%	（62.4%）
大問4	52.5%	（32.3%）

私の授業～高3＆中等6　国特①古文

②活用型中心のAL　6月～11月

・生徒は事前に指定された問題を解いてくる　⇒「個」

　★各自のリフレクションをしっかり意識する

・4人一組のグループに分かれ、一人一人が各自の「解」とその背景を説明したあと、最適解構築に向けての「グループワーク」　⇒「協働」　※10～15分

・グループの代表による発表　⇒　質疑応答

・教員による講義

・リフレクション⇒「個」

生徒のリフレクションから

現在進行形2017．6～7

・グループワークでは、各々の考えをただ発表するのではなく、ポイントを絞って議論したいところ。

・最初の段階でＣが出した解答をしっかりグループで吟味すべきだった。

・自分の考えは合っていたが、根拠を示すことが出来ず他の意見に揺れてしまった。

・間違っているところには、必ず論理的に正しいと証明できない部分があるということが人に説明するととてもよく分かる。

前期期末考査結果

【平均点の推移ー定点観測】

2017年度（高1次からAL型授業）

全体平均点　61.9点

2016年度（高2次で部分的に導入）

全体平均点　68.8点

≪参考≫

2015年度　　46.1点

2014年度　　45.8点

最終授業のリフレクションから

- 今日のグループワークで自信がつきました。今まで凄いと思ってた人と対等に、そして自分の解答の正当性を主張することができて、**その人と同じ高さにいる、と実感できました。**
- 自分で予習した際にはさっぱり…？という感じであったが、**グループワークの中で段々と紐解けてきて、**解答を作り上げることができたというのが面白かった。
- 今回の文章はとても難しかったが、グループのみんなで話し合って解答をまとめることができ**自分の古文に対する執着に成長を感じました。**

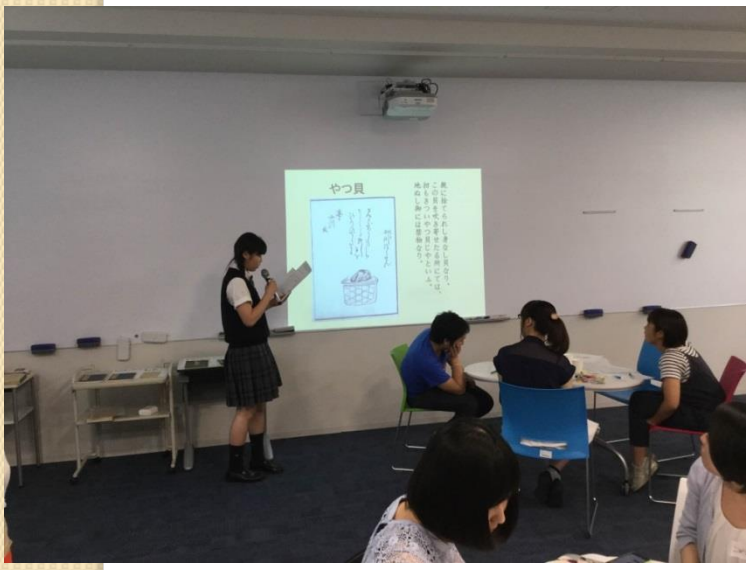
最終授業のリフレクションから

- グループワークでも何が分からないかをあげ、順を追って整理するうちに、だいぶ見通しがよくなった。自分の中でも、「問いかけ―答える」で頑張る。

- ひとりでグループワークをした気分でした。

- 自分の意見を説得力をもってアピールしつつも相手の話をよく聞いて、全員の納得する結論を導き出すこと、そしてそのような雰囲気を醸成できる人材が大事だと思った。⇒この生徒は？

大学生になってからの力強い学びと成長に繋がるか



「わくわく♪日本文学ワークショップ
8大学合同」
@成蹊大学　2016．8.2

大学生になってからの力強い学びと成長に繋がるか

「わくわく♪日本文学ワークショップ
8大学合同」
@駒澤大学　2017.9.17

今日お話させて頂くこと

1. AL型授業のポイントは？

2. 私の授業実践から

3. 課題と今後の展開

現在抱えている課題＆これからの展開

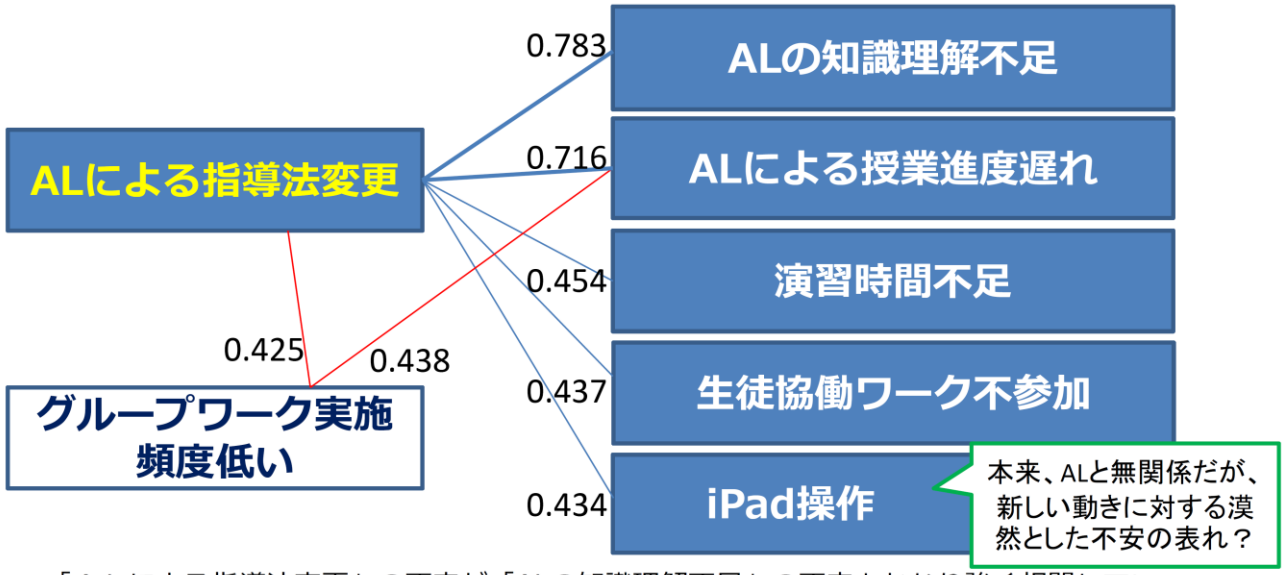
〇校内への確かな浸透
〇カリキュラムマネジメント
〇アセスメント

〇生徒の学びと成長のために…

ＡＬ推進における最大の難関は？

教員の意識

「ALによる指導法変更」との相関関係 5教科のみ



- 「ＡＬによる指導法変更」の不安が「ALの知識理解不足」の不安とかなり強く相関している。AL導入の不安は、ALについての知識や理解が足りないことに起因している可能性がある。
- グループワークの実施頻度が低いほど、ALによる指導法変更に不安を感じる傾向が見られる。実際にAL型授業を実践すれば、ＡＬ導入に伴う不安が払拭される可能性は高い。
- 「授業進度遅れ」の不安とも強く相関している。「演習時間不足」の不安とも相関しており、背景には大学受験対策が不十分になることへの不安があると言えそうだ。
- 生徒たちがペアワークやグループワークに参加しないのではないかとの不安が、指導法変更への不安とつながっていることもわかる。

今後の展開
カリキュラムマネジメントの視点から

＊PDCAサイクル
＊エビデンス
＊評価
※高校版IR

ＡＬ3年目の取組み

- ６年間の学年目標
- 自ら考え、判断し、
  - 行動できる青年への成長

- １年次の年間目標
- 自己理解・他者理解
- ～自分を知り、仲間を大切にする～

～ＡＬ推進と現状～

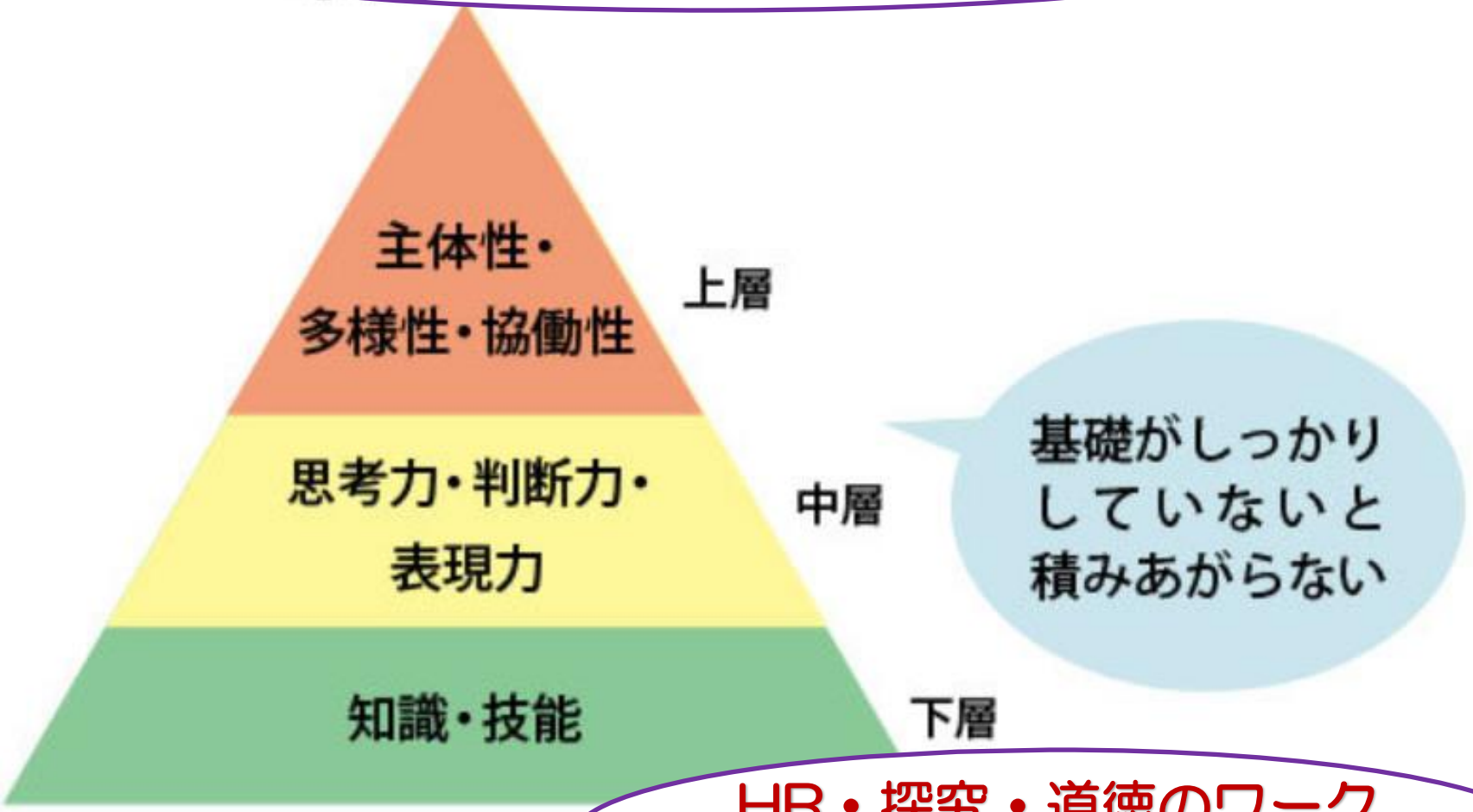
例えば学年で行ったワークとして…

- 「自己紹介」ペア
- 「学園歌の歌詞の意味」ペア
- 「勉強の好きな面、嫌いな面」グループ
- 「授業開始に向けた決意」ペア
- 「授業開始決意１ヶ月後振り返り」ペア
- 「前期中間考査に向けた決意」ペア

学年がＡＬを引っ張る

～ＡＬ推進と現状～

好循環につなげる！



HR・探究・道徳のワーク
各授業のワーク

～HRにおける諸活動～

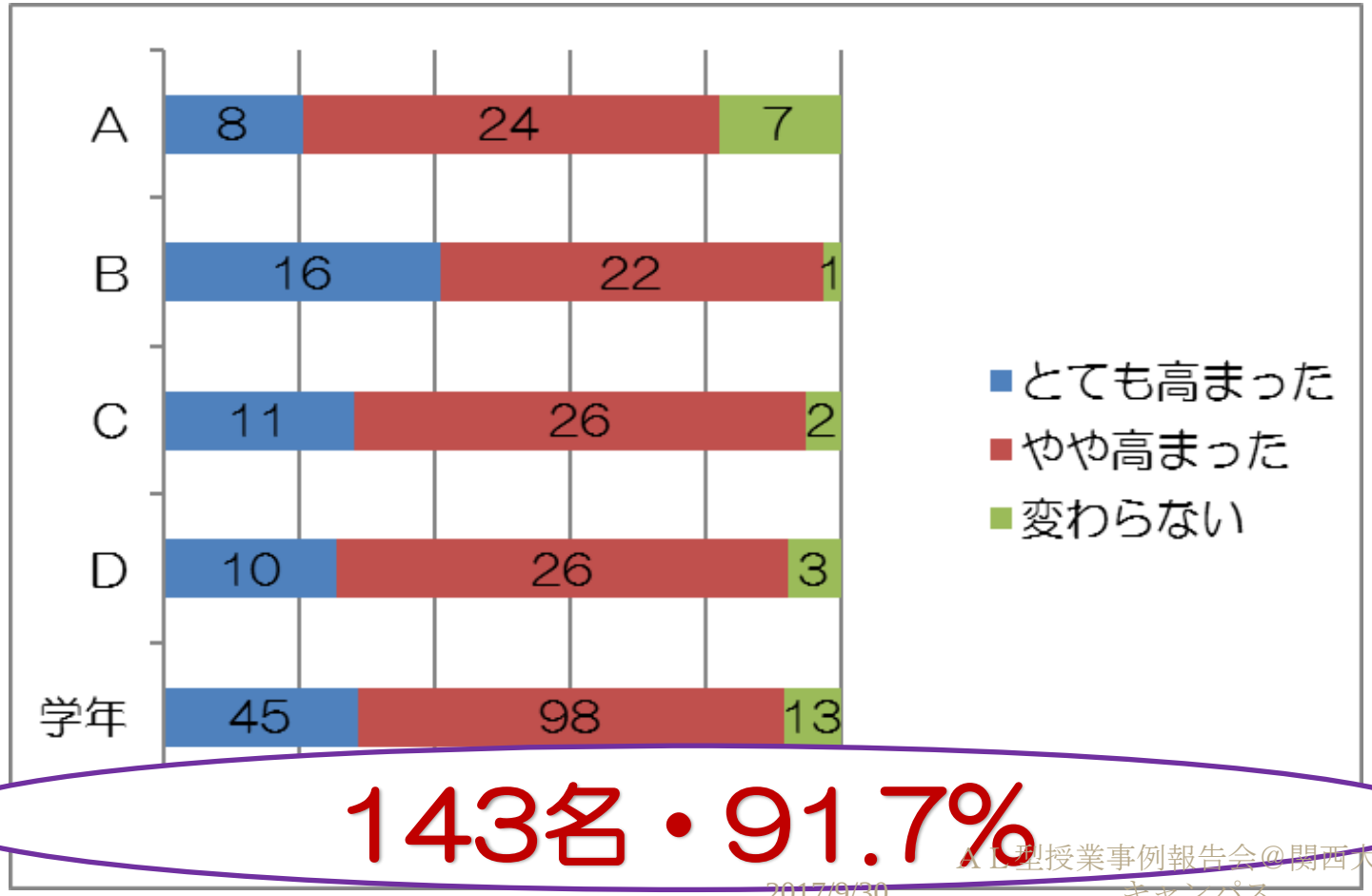
●個人面談

⇒ロイロノートで事前に提出。

⇒まず担任に「自分の言葉」でプレゼン。

～ＡＬ推進と現状～

ＡＬや１分間スピーチを通じて
話す力・聞く力・発表する力は高まった？



143名・91.7%

高校間アクティブラーニングの試行 ～CSCL

桐蔭学園
- 対象学年：1 年生
- 単元：生物
- 対象クラス：5 クラス
- 担当：△△「教諭

1 回目
2017 年 6 月
（単元：遺伝子）
2 回目
2017 年 10 月
（単元：免疫）

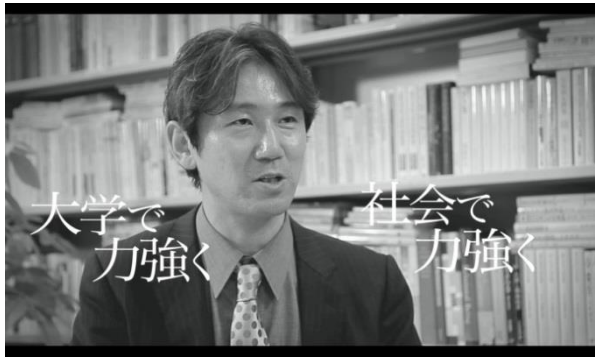
インターネットを介した
協働・競争・学びの深さ

〇〇高校
- 対象学年：1 年生
- 単元：生物
- 対象クラス：5 クラス
- 担当：△△教諭

今回，〇〇先生ご提案のコドンレターは，文字を当てはめて情報を伝達する，といったこのプロセスそのものがセントラルドグマのプロセスと同様ということで，ただの遊びや楽しみではない，根本を理解するために非常に効果的だと理解しました。

生物で楽しい授業，この前の〇〇先生の授業でもそうですが，生徒の顔つきや表情が各段に違いますね。

これからも全学＆全教科でAL改革に



YouTube【改革２年目のさらなる進化】
桐蔭学園アクティブラーニング型授業の改革

◆下記からご覧になれます。

https://www.youtube.com/watch?v=Mkd8VIikJ-U

「授業見学」のご案内

◆桐蔭学園はAL向上を目指して、外部からの授業見学をいつでも受け付けています。見学したい方は下記にご連絡下さい。

担当： 佐藤透（satohru@toin.ac.jp）

ご清聴ありがとうございました。